

複合型公共施設の運営手法検討に向けたサウンディング調査について

1 趣旨

令和16年度に開館予定である複合型公共施設について、運営手法検討に向けたサウンディング調査実施について報告するもの。

2 サウンディング調査について

(1) 複合型公共施設の運営手法について

複合型公共施設には、文化ホール、中央公民館、中央図書館等の機能が統合される。施設の複合化にあたっては単なる個々の施設の集合体でなく、施設間の融合を図ることにより、市民の新たな出会いや発見の場となる文化拠点を整備することとしている。

また、施設の運営においても、「文化の地産地消」をキーワードに、各施設単体での事業だけでなく、複合化の利点を最大限活かし、施設間で相互に絡み合った事業展開を図るため、民間事業者のノウハウを活かした一体的運営を目指している。ただし、効率化やコスト面のみに注目するのではなく、サウンディング調査を実施し、広く民間事業者の意見を募って詳細に調査、検討を行う。

(2) スケジュール

令和8年6月にサウンディング調査事業者が決定し、7月からサウンディング調査が行われ、令和9年3月末に調査報告書が提出される予定である。

令和9年度以降に、サウンディング調査結果をもとに、最終的な運営手法や民間に委ねる業務範囲等を決定する。

【参考】サウンディング調査

サウンディング調査は「民間活力導入可能性調査」とも呼ばれ、事業の検討にあたって公募により民間事業者から広く意見や提案を求め、事業への有用な意見やアイデアを収集することを目的とした、民間事業者と市との直接の意見交換による調査である。事業検討の早い段階で民間事業者の意見を募ることにより、事業成立の可否の判断や市場性の有無、事業者がより参加しやすい公募条件の設定を把握することが可能となる。